

令和7年（2025年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025 年中変更無し	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
-------------	----------------------------

○2025年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～9）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上300m以下で経過し、噴気活動は低調な状態です。

8月12日と22日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、昨年（2024年7月及び8月）と比べて、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気活動や地熱域の状況に特段の変化はみられませんでした。また、御鉢平カルデラでも地表面温度分布に特段の変化はなく、引き続き噴気は認められませんでした。

8月24日～25日及び28日～29日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の多くの噴気孔で噴気温度が100℃以上（I-8は200℃以上）の高温状態が継続していました。

・地震及び微動の発生状況（図1-④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図10）

8月24日～28日に実施したGNSS繰り返し観測では、火山活動の活発化を示すと考えられる特段の変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

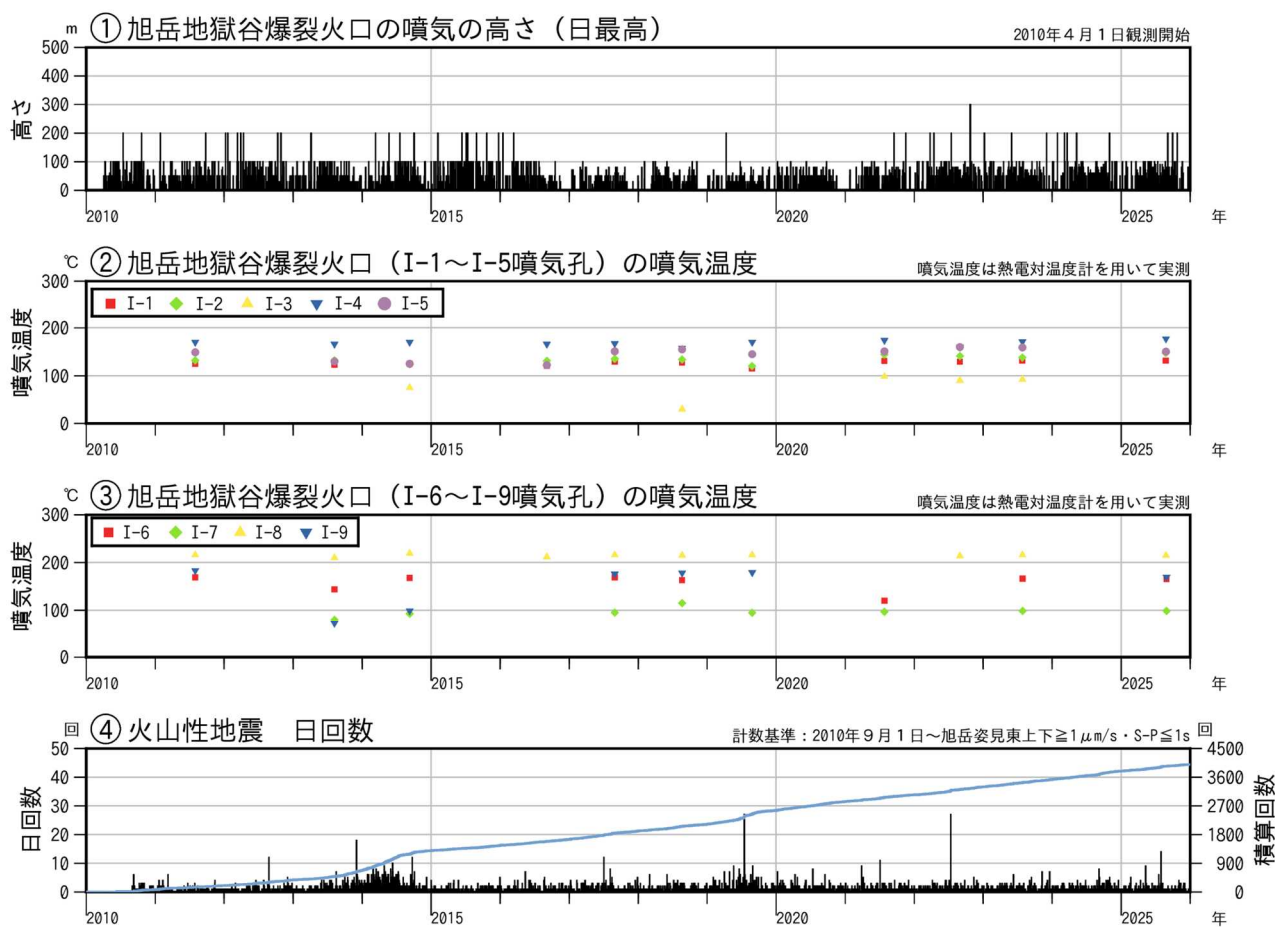


図 1 大雪山 火山活動経過図（2010 年 4 月～2025 年 12 月）
②③の噴気温度の測定位置は、図 3 を参照してください。



図 2 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

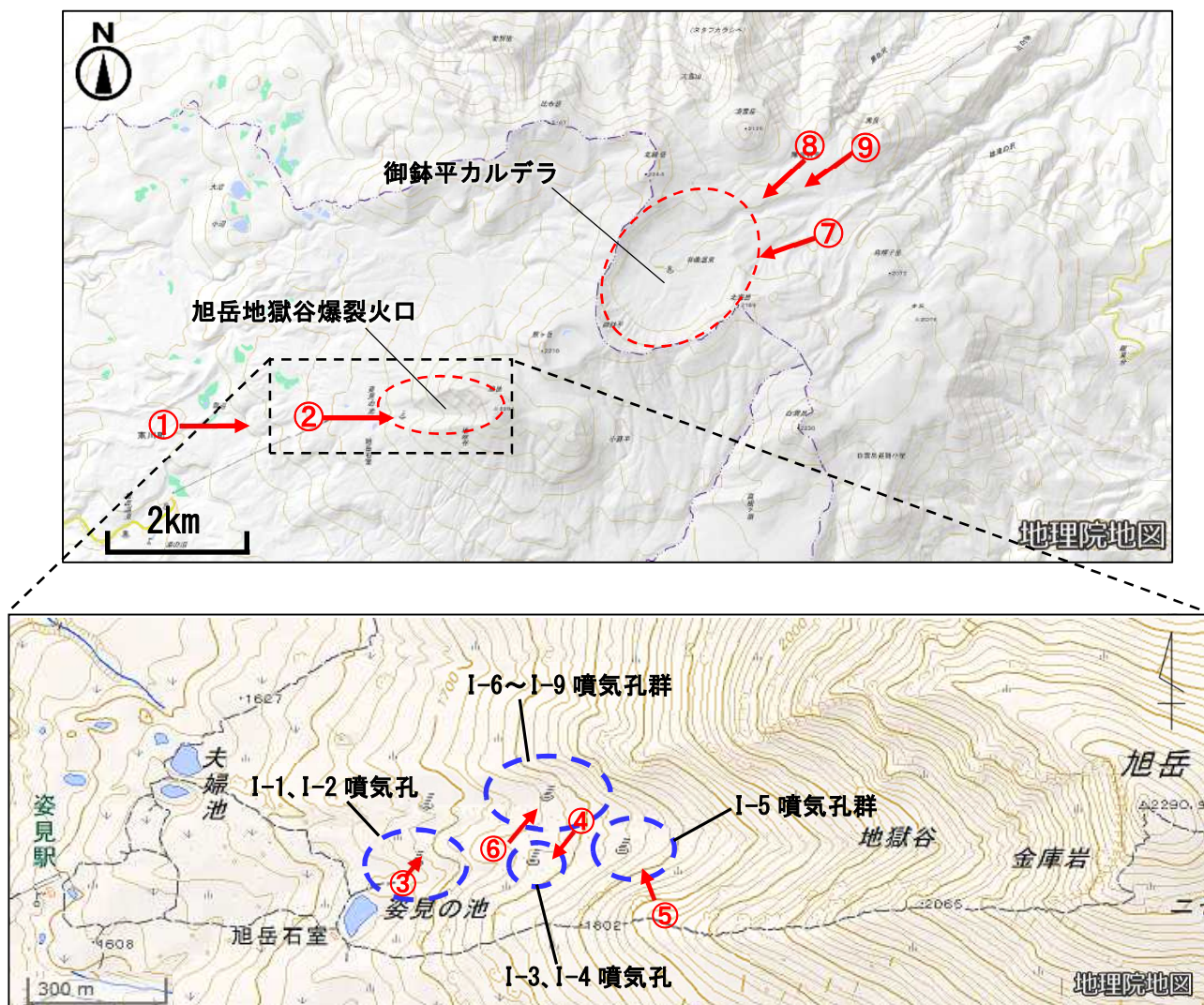


図3 大雪山 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

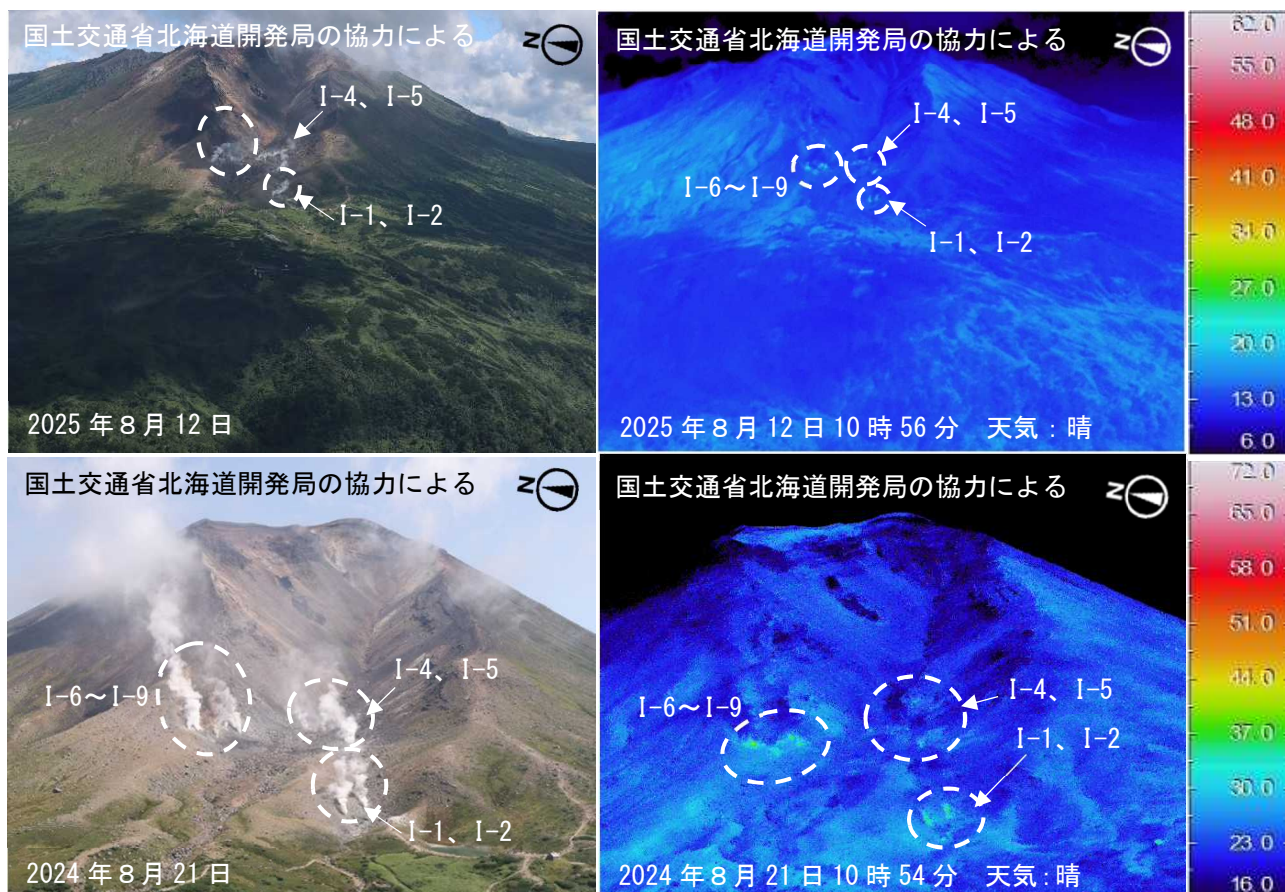


図4 大雪山 赤外熱映像観測装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

上段：西側上空（図3の①）から撮影 下段：西側上空（図3の②）から撮影

- ・2024年8月の観測と比べて、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

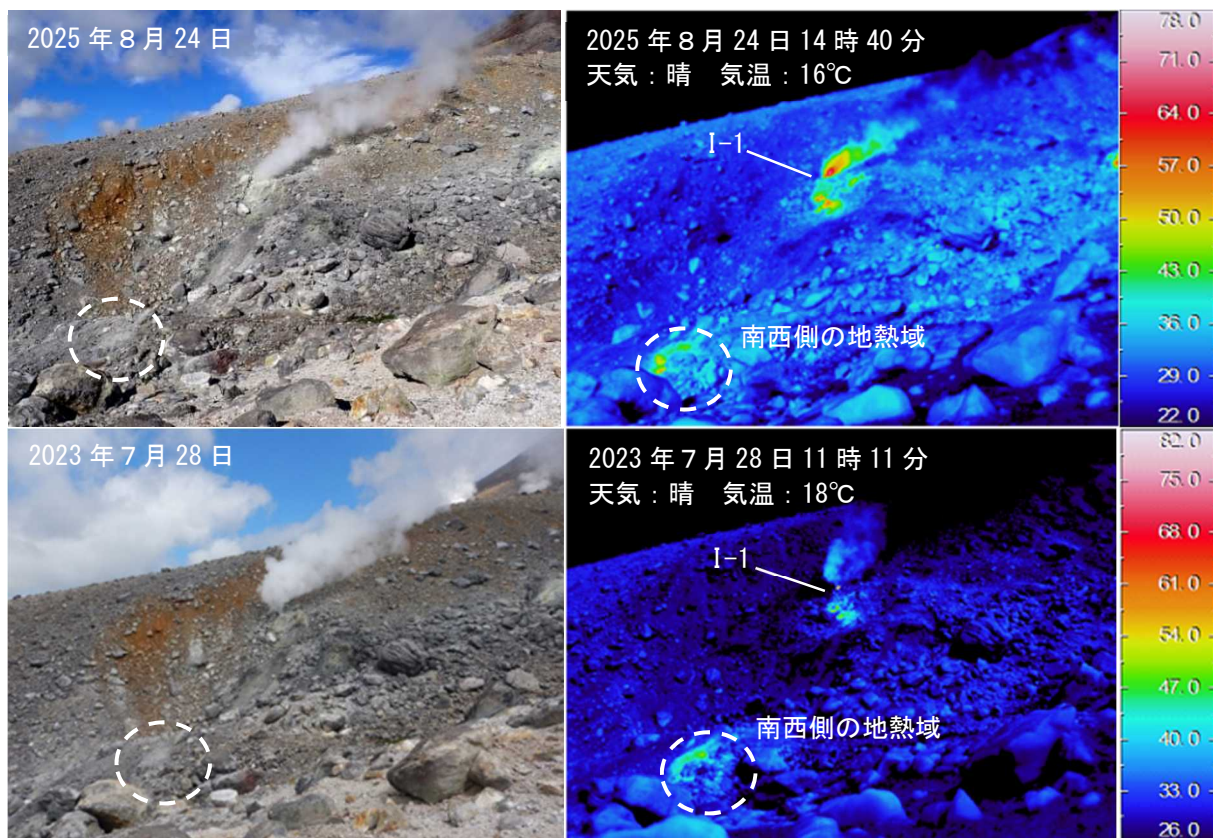


図 5 大雪山 赤外熱映像装置による I-1 噴気孔の地表面温度分布 南西側（図 3 の③）から撮影
・前回の観測（2023 年 7 月）と比べて、噴気の勢いや地熱域の拡がりに特段の変化は認められませんでした。

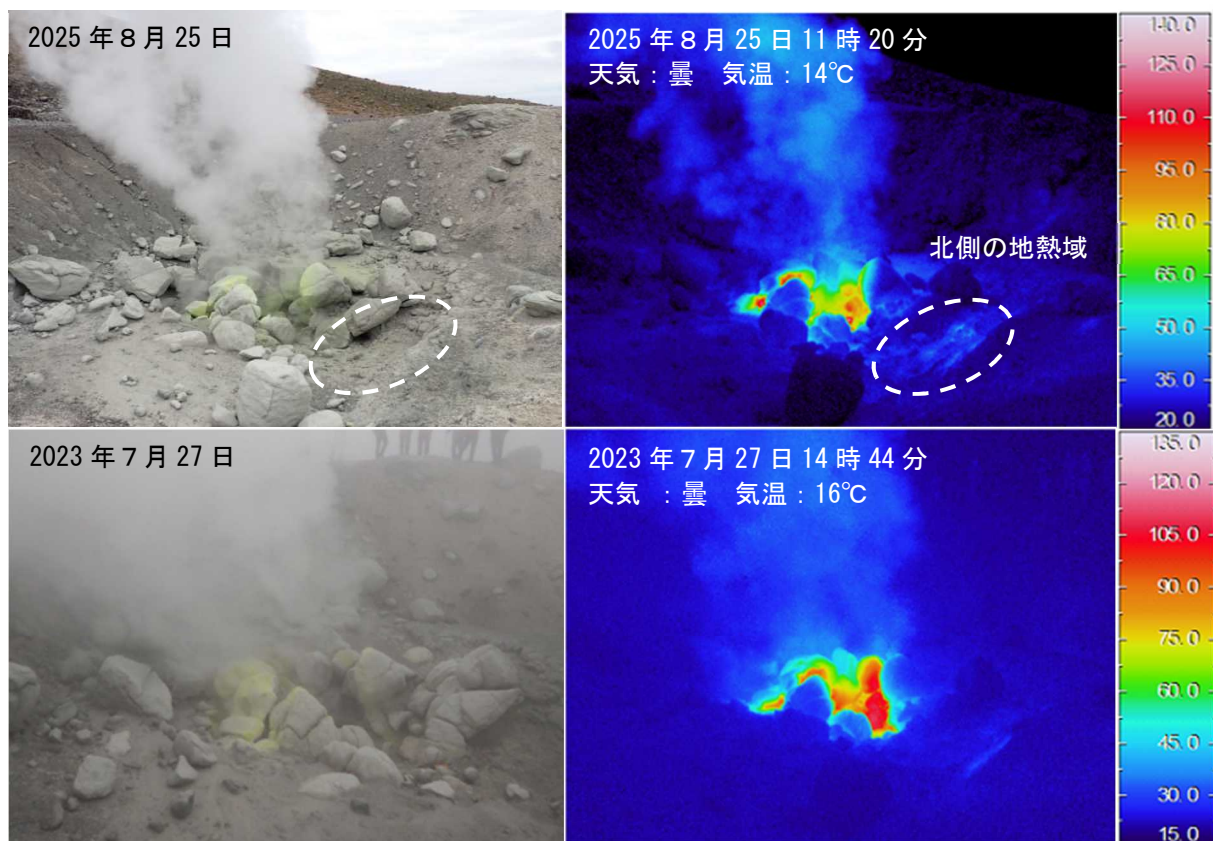


図 6 大雪山 赤外熱映像装置による I-4 噴気孔の地表面温度分布 北東側（図 3 の④）から撮影
・前回の観測（2023 年 7 月）と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。前回の観測で見えなくなっていた北側の地熱域（白破線内）を確認しました。

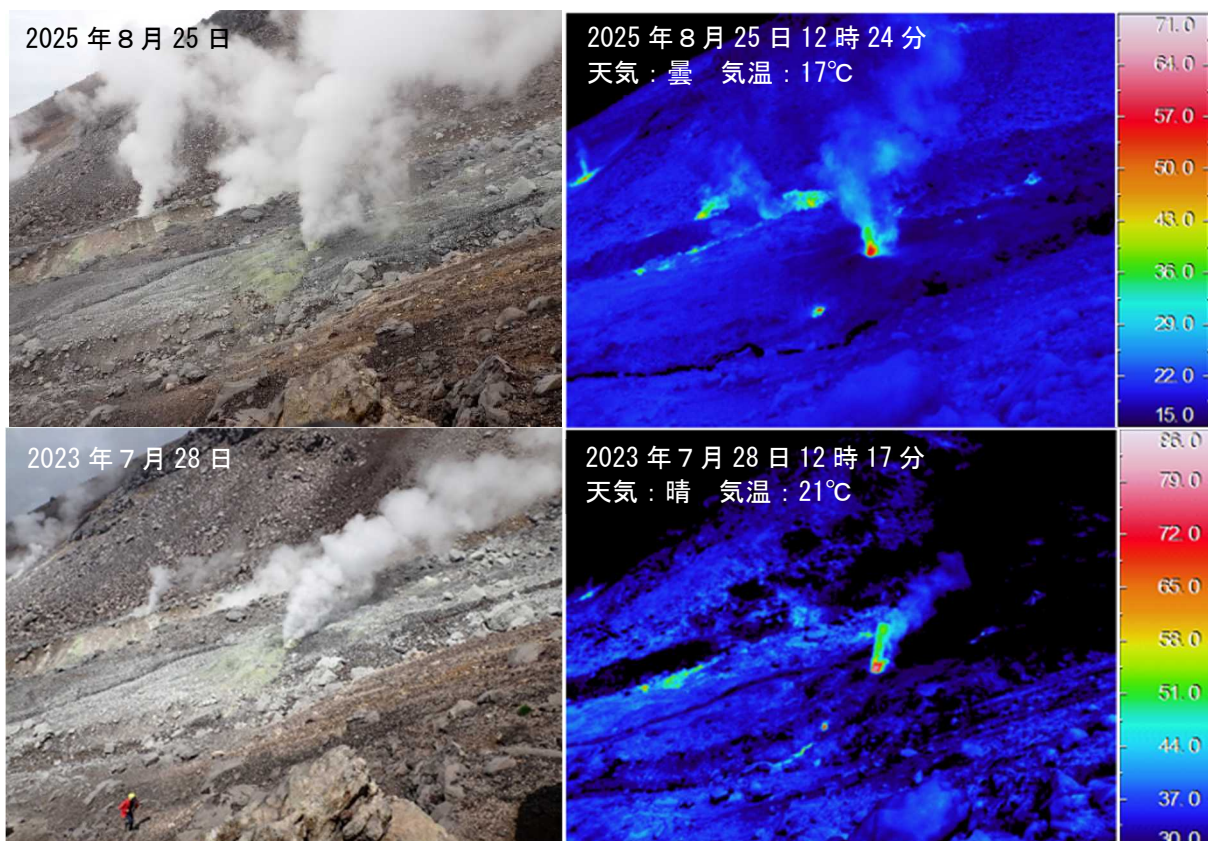


図 7 大雪山 赤外熱映像装置による I－5 噴気孔の地表面温度分布 南東側（図 3 の⑤）から撮影
・前回の観測（2023 年 7 月）と比べて、噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした（地表面温度分布は噴気や日射の影響で見え方に違いがあります）。

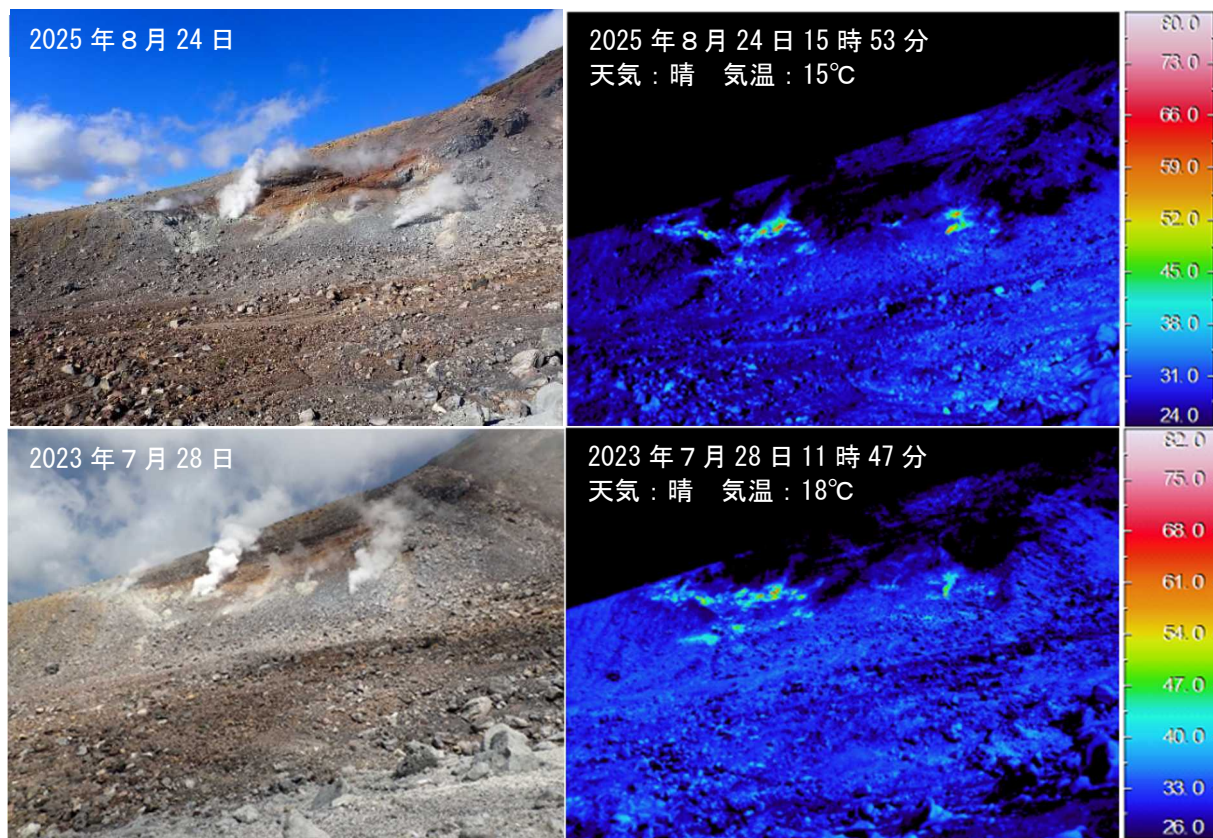


図 8 大雪山 赤外熱映像装置による I－6～9 噴気孔群の地表面温度分布 南西側（図 3 の⑥）から撮影
・前回の観測（2023 年 7 月）と比べて、噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした（地表面温度分布は噴気や日射の影響で見え方に違いがあります）。

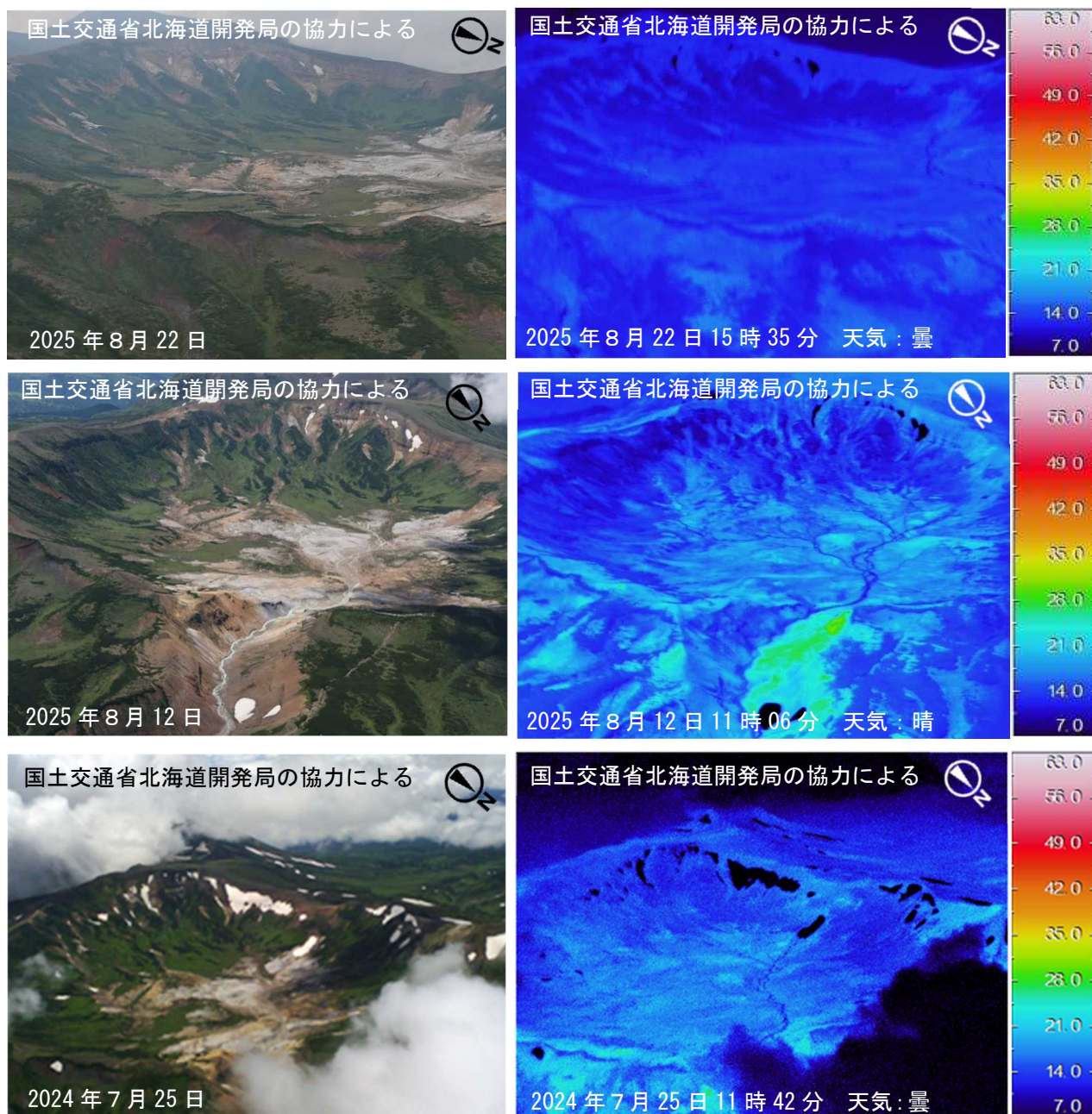


図9 大雪山 赤外熱映像観測装置による御鉢平カルデラの地表面温度分布

上段：東側上空（図3の⑦）から撮影

中段：北東側上空（図3の⑧）から撮影

下段：北東側上空（図3の⑨）から撮影

- ・カルデラ内に噴気は認められず、2024年7月の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

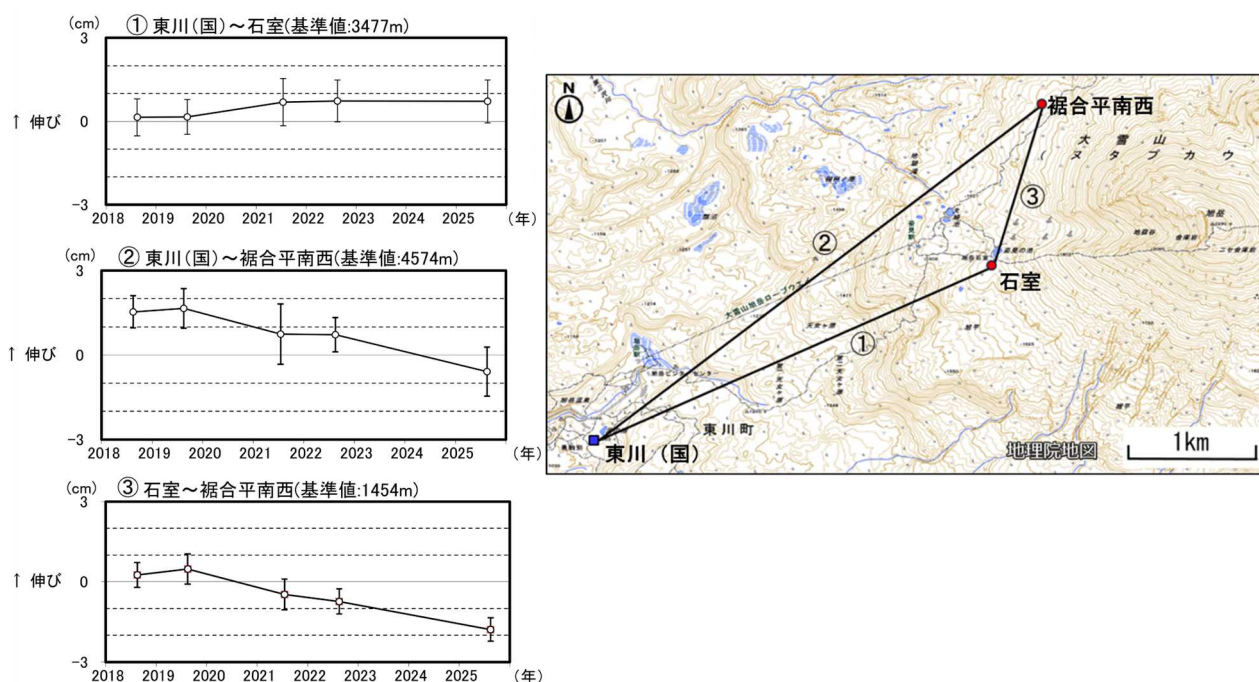


図10 大雪山 GNSS繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図（2018年8月～2025年8月）

GNSS基線①～③は観測点配置図（右図）の①～③に対応しています。

東川（国）は国土地理院の連続観測点です。

- ・ 前回の観測（2022年8月30日～9月2日）と比べて、火山活動の活発化の可能性を示唆する特段の変化は認められませんでした。
- ・ 基線②③では裾合平南西の局所的な動きにより基線長の短縮が認められていると考えられます。

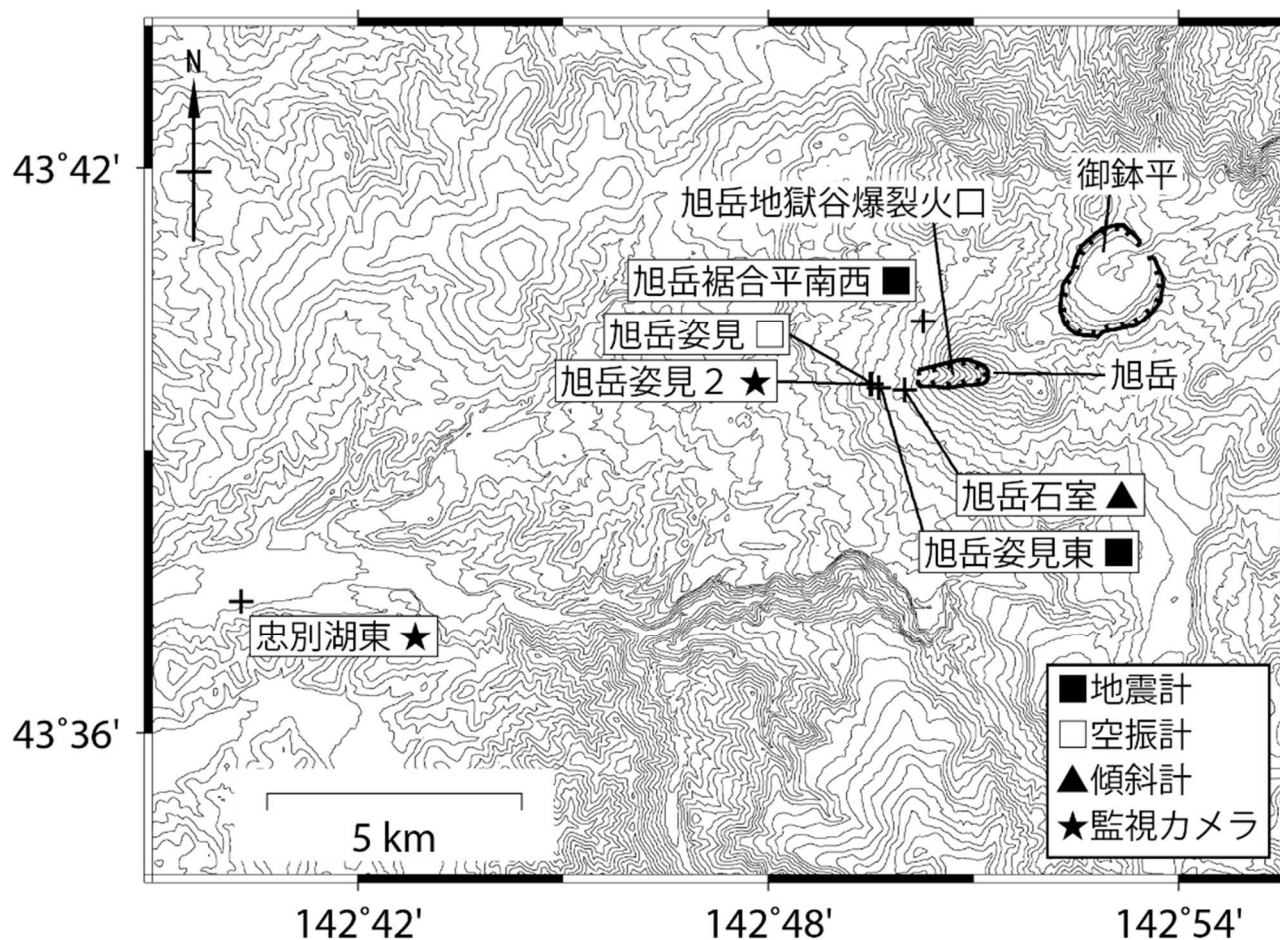


図11 大雪山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

表1 大雪山 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）
記号は図11に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1608	0	2010年9月1日	
		旭岳裾合平南西	43 40.37	142 50.26	1709	-2	2016年12月1日	広帯域地震計
□	空振計	旭岳姿見	43 39.70	142 49.51	1597	7	2010年9月1日	
★	監視カメラ	忠別湖東	43 37.43	142 40.23	430	13	2010年4月1日	
		旭岳姿見2	43 39.69	142 49.51	1597	27	2016年12月1日	可視及び熱映像
▲	傾斜計	旭岳石室	43 39.62	142 49.96	1676	-15	2016年12月1日	